

2017年10月6日

スカパーJSAT株式会社

### アジア初、スカパーJSATとKymeta社が共同で 平面アンテナによる移動体向け衛星通信に成功

スカパーJSAT株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 執行役員社長 高田 真治、以下スカパーJSAT）は、本日、平面アンテナ端末メーカーである Kymeta Corporation（本社：アメリカ合衆国、President Nathan Kundtz、以下カイメタ社）の開発した平面アンテナ端末 mTenna<sup>u7</sup> ASM（Antenna Subsystem Module）を用いた大容量衛星通信をアジアで初めて実施し、成功したことをお知らせ致します。

スカパーJSAT とカイメタ社が本日実施したデモンストレーション通信には、カイメタ社の衛星捕捉技術<sup>\*1</sup>を活用した平面アンテナ端末 mTenna<sup>u7</sup> と、スカパーJSAT の通信衛星 JCSAT-5A の衛星回線を使用しました。車体屋根に搭載した平面アンテナ端末の自動衛星捕捉機能が自動的に JCSAT-5A を捕捉し、走行中も車載アンテナの向きを物理的に変えることなく衛星通信回線を確立しました。さらに、同車内からの HD 映像伝送にも成功しました。

#### 【実施内容】

日時： 2017年10月6日午後

場所： 車両は東陽町近辺を走行（車両走行時速 60km）。

受信場所はスカパーJSAT 横浜衛星管制センター

通信速度：約 3Mbps

使用衛星：JCSAT-5A

この平面アンテナ端末は、様々な移動体（車両・電車・航空機・船舶等）への搭載が可能となっており、日本国内ではスカパーJSAT の衛星通信回線の利用により、走行中の移動体が双方向の通信を行えるようになります。平常時はもちろんのこと、災害時等の携帯電話の利用が困難な状況・場所においてもご利用いただけることから、複数の車両に対するデータ同報通信や、災害時の人命救助活動に用いられる特殊車両等での活躍が期待されています。

また、“自動捕捉機能”“省スペース”という平面アンテナがもつ利点により、BCP 対策にも適しています。どなたでも簡単にすぐに利用できるという平面アンテナ端末と衛星通信がタッグを組み、今後の発展が予想される IoT 分野においても、衛星通信は「つなげる」開拓を進めてまいります。

なお、来年度以降の商用化に向け、一部の顧客向けにデモンストレーションを行うほか、10月11日から13日にかけて東京ビッグサイトで行われる危機管理産業展、10月17日から18日か

けてウェスティンホテル東京で行われる TU-Automotive Japan でも展示を行います。

スカパーJSAT は今後も新たな衛星利用の開拓に向け、日本国内外での事業開発に継続して取り組んでまいります。

※<sup>1</sup> カイメタ社の有する技術。メタマテリアルを用いたエレクトロニカルビームフォーミングにより、物理的にアンテナの向きを変えずに、ソフトウェアにより電波ビームの方向を制御可能。

### 【カイメタ社概要】

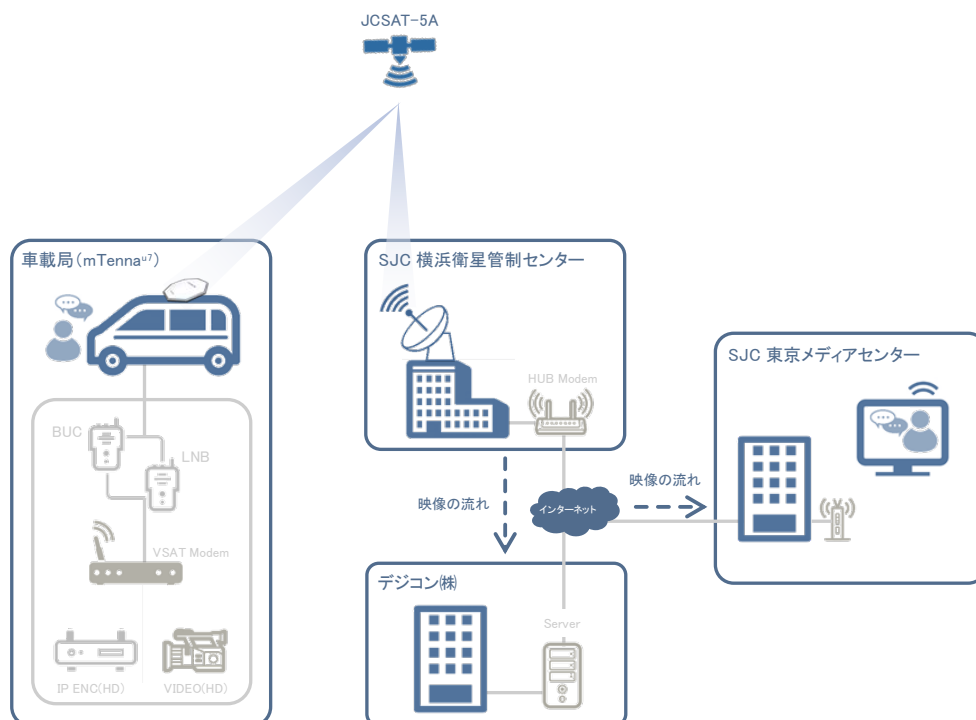
カイメタ社は、米国ワシントン州レッドモンドを拠点とし、グローバルに事業を展開しています。カイメタ社の最初の製品、ソフトウェアが制御するメタマテリアルを用いたエレクトロニクスビームフォーミングによる衛星通信アンテナは、船舶・航空機・自動車等の移動体がどこにあってもつなげていきます。カイメタ社はこれまでアンテナ形状の制約から衛星に接続することが難しかった移動体に対して高速な衛星通信を実現することにより衛星の新たな利用分野を開拓します。

今年3月、スカパーJSAT はカイメタ社への出資と戦略的業務提携を行っております。

詳細は右記リンクをご参照ください [www.kymetacorp.com](http://www.kymetacorp.com).



### 【デモンストレーション概念図】



### 【デモンストレーションに使用した機装車】



### 【mTenna<sup>u70</sup> 仕様】

使用可能温度	-25℃ to +55℃
アンテナ端末寸法	L82.3 cm × W 82.3 cm × D 7.1 cm
重量	16.4 kg (金具/ケーブル類を除く)

以上